

私の内弟子体験

カルロ・ガタリック



「朝早く、夜遅く、そして掃除も稽古も多い」

タスマニアから日本へ旅立つ前に、小林道場における内弟子としての生活はそういうものだ、と聞いていましたが、まさにその通りでした。毎日二三回の稽古や所沢道場と小平道場間の移動、そして稽古前の掃除を合わせると、睡眠時間が六時間しかない多忙なスケジュールとなりました。やることはまさに「掃除と稽古」ばかりでした。これこそ内弟子の毎日です。道場に関することが第一になります。

日中の食事は、大抵移動中に適当なもので間に合わせることにしました。駅のそば屋でそばを食べると早く食事を済ませることができ、その炭水化物がペースを緩ませないためのエネルギーとなりました。毎日の最後の稽古の後の食事は、大抵居酒屋で、ビールを何本も飲みながら食べたものです。

私の滞在中に、他に四人内弟子として道場に住み込んでいました。洗濯機が休まず回転しているような、集団生活の日々でした。テレビも、ラジオも、新聞もない生活ですので、ともに暮らしている人々の性格をよく観察することができました。

日本滞在中のハイライトは、何よりも稽古でした。受け身のやり方をタスマニアで習ったやり方より小さくしたら、小平道場の畳の固さに馴染むことができ、そして毎日の稽古に打ち込むこともできるようになりました。さらに、上級者を相手にして稽古することによって、そのような受け身を取れる相手に対していろいろな技をかけてみることもできました。こうした稽古は、私にとって実に貴重な体験でした。道場の外での剣と杖の稽古は、特に楽しかったです。日本の春の空気を吸いながらの稽古は、本当に清々しいものです。

稽古に関してもう一つの楽しみは、子供クラスでした。子供達は、元気一杯で、やる気満々だったからです。タスマニアでの合気道クラブには、子供クラスがないので、それでどれだけ損をしているかをつくづくと思い知らされました。

道場長と五十嵐先生とともに山中合宿に参加したのは愉快的な経験で、明治大学の学生たちと一緒に稽古することも楽しかったです。

弘明先生と実代子さんが毎週水曜日に準備してくれた朝食は、素晴らしい御馳走でした。内弟子全員揃ってそれを頂きました、そのご親切な持て成しと絶品の料理は、本当に有り難いものでした。しかし、納豆が出ると、いつも面白い風景が見られました。納豆を食べようと努力している他の海外からの内弟子の顔は、実に面白かったです。

内弟子生活についてのもう一つの記すべき出来事は、毎週金曜日の朝に、道場長と指導員の方々のために、世界一狭い台所で朝食を用意することでした。この困難に満ちた仕事は、我々内弟子たちにとって悩みの原因となったけれども、毎週に何となく無事に料理ができて、ホッとしました。この行事は道場の伝統となり、長年に続いているそうですが、その間に道場長と指導員の前には、海外からの内弟子による変わった食事が度々出されたに違いないことでしょう。



そして、風呂屋に関して一言を言わないわけにはいきません。風呂屋には、本当に命を救われました。滞在の一週間目に、スウェーデンから来た内弟子のビョーン君が私を初めて温泉まで連れて行ってくれました。その後、温泉へ通うのは、毎週月曜日の習慣となりました。

風呂屋通いは、内弟子の毎週の行事の一つにすべきだと思います。

弘明先生はこのような行事を内弟子の週間予定表に加えてくれればいいのに。リラックスするには、風呂屋が最高です。

全般的に言えば、日本は効率よく組織された国で、人々は私に対して丁寧だと思いました。駅の近くの駐輪場に置いた自転車は、しばしば勝手に動かされたりしたので、毎回自分の自転車を探し出すのにはイライラすることもありましたが、仕方ないでしょう。丁寧な店員さん達や時刻表通りに走る電車は、私の滞在経験を快適にしてくれました。

私の内弟子としての時間は短くとも、本当に素晴らしい、ためになった経験でした。稽古のために日本に再び戻る機会を、大きな夢として持ち続けています。帰国する際にはたくさんの知り合っただけの友人とお別れしました。日本人は非常に丁寧でフレンドリーな人々で、日本は晴らしい国だと思いました。皆さんが私とその他の内弟子に示してくれた親切心と思いやりは、いつまでも懐かしく覚えています。

道場長を始め、弘明先生、笠原さん、宇界さん、そしてその他に、私の滞在と日本文化と合気道稽古の体験を可能にくださった皆さんに、深く感謝します。

